

2010年6月

法科大学院統一適性試験

第2部 分析的判断力を測る問題

《タイムスケジュール》

13:40 「分析的判断力を測る問題」の試験開始
14:20 「分析的判断力を測る問題」の試験終了

《注意事項》

1. 受験にあたっての注意

(1) 試験時間中の途中退出の禁止等

各部の試験開始から試験終了(解答用紙の回収時間を含む)までは、解答が終了しても途中退出はできません。

ただし、トイレ・急病等、やむをえない事情で退席される場合は、挙手をして試験監督員の誘導を受けて下さい。

試験終了後は、問題用紙はお持ち帰り下さい(解答用紙は回収します)。

(2) 筆記具等

解答用紙へのマークは、HBまたはBの黒鉛筆を使用して下さい。その他の筆記具(HB・B以外、シャープペンシル等)を使用した場合、採点機械で読みとることができず、無答と判断されることがあります。

試験時間中、机の上に置いておけるものは、受験票、鉛筆、消しゴム、手動の鉛筆削り、腕時計、腕時計に準じるサイズの置き時計、眼鏡だけです。その他の物(筆箱、眼鏡ケース等)はカバン等に入れて下さい。

マーカー、定規、ボールペン、耳せん、ストップウォッチ等の補助具は使用できません。

(3) 解答方法

マークは、各問題につき1つのみマークして下さい(2つ以上マークすると無効になります)。

誤ってマークした場合は、跡が残らないようにきれいに消しゴムで消して下さい。

解答用紙は折り曲げたり汚したりしないで下さい。

(4) 棄権・欠席

試験を棄権する場合、挙手をして試験監督員の誘導を受けて下さい(その場合、問題用紙と解答用紙は回収します)。

本適性試験は、4種類(第1部～第4部)すべての試験に解答が義務づけられていますので、このうち1つでも棄権・欠席すると、すべての試験につき、採点がなされません。

2. 不正行為・迷惑行為の禁止

以下の行為があった場合、「失格」とし、その時点以降の受験をお断りします。また、すでに受験した部分についても無効とし、採点は行いません。次年度以降の受験もお断りします。

なお、法科大学院に対して当該受験者が「失格」となった旨、報告することがあります。

- ① 試験中に、他人に援助を与えたり、他人から援助を受けた場合
- ② 他人に代わって試験を受けた場合
- ③ 他人に対する迷惑行為を行った場合
- ④ 試験監督員の指示に従わなかった場合
- ⑤ その他不正行為を行った場合

3. その他

本試験において利用した著作物のうち、問題作成の都合上必要があるものについては、修正を加えています。

適性試験委員会
財団法人 日弁連法務研究財団
社団法人 商事法務研究会

試験問題は次頁から

【分析的判断力を測る問題】

以下の問題1～4は、問題ごとに設定された同一の前提条件および小問からなっている。設定された条件に基づいて、各小問に解答しなさい。なお、小問ごとに新たに設定された条件は、特に指示のない限り他の小問に影響を与えないこととする。

問題1

1～4の数字が書かれたタイルがそれぞれ2枚ずつあり、いずれも2枚のうちの1枚は赤で、もう1枚は青で塗られている。以下、数字1が書かれたタイルを「1のタイル」とよび、他の数字も同様とする。これら8枚のタイルの中から何枚かを取り出し、1列に並べる。このとき取り出したタイルについて考える。

I. 8枚のタイルの中から4枚を取り出した。このとき、小問(1)に答えなさい。

(1) 以下のうち、必ず成り立つものを1つ選びなさい。

1. 赤いタイルがないならば、2のタイルはない。
2. 青いタイルがあるならば、赤いタイルもある。
3. 4のタイルがないならば、青いタイルはある。
4. 4のタイルがあるならば、3のタイルはない。
5. 1と4のタイルがあるならば、赤いタイルはない。

II. 8枚のタイルの中から6枚を取り出し、その順に1列に並べた。また、つぎのことがわかっている。

- ・取り出したタイルの色は順に、赤、赤、青、赤、赤、青だった。
- ・タイルに書かれた数字の合計は14だった。
- ・同じ数字の書かれたタイルが連続して取り出されることはなかった。
- ・1列に並べたタイルの両端はいずれも1でも2でもなかった。

このとき、小問(2)～(4)に答えなさい。

(2) 取り出した青いタイルに書かれた数字について、以下のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 2のタイルを含む。
2. 3のタイルを含む。
3. 4のタイルを含む。
4. 1のタイルを含む可能性も含まない可能性もある。
5. 3のタイルを含む可能性も含まない可能性もある。

(3) 赤い1のタイルは何番目か。以下のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 1番目
2. 2番目
3. 4番目
4. 5番目
5. 何番目かは確定しない。

(4) 赤い2のタイルは何番目か。以下のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 1番目
2. 2番目
3. 4番目
4. 5番目
5. 何番目かは確定しない。

Ⅲ. 8枚のタイルの中から5枚を取り出し、その順に1列に並べた。また、つぎのことがわかっている。

- ・ 1～4のすべての数字のタイルが取り出された。
- ・ 連続して取り出されたタイルの数字の差はすべて1だった。

このとき、小問(5)～(6)に答えなさい。

(5) 以下のうち、成り立つ可能性のないものを1つ選びなさい。

1. 赤い1のタイルも赤い3のタイルもない。
2. 赤い2のタイルも赤い3のタイルもない。
3. 赤い1のタイルも青い4のタイルもない。
4. 赤い2のタイルも青い3のタイルもある。
5. 赤い1のタイル、赤い3のタイル、赤い4のタイルがいずれもある。

(無断転載を禁止します)

- (6) 以下のうち、必ず成り立つものを1つ選びなさい。
1. 1番目と4番目のタイルの数字の合計は5である。
 2. 2番目と3番目のタイルの数字の合計は5である。
 3. 2番目と4番目のタイルの数字の合計は4である。
 4. 3番目と5番目のタイルの数字の合計は4である。
 5. 4番目と5番目のタイルの数字の合計は7である。

問題 2

A, B, C, D, E, F, Gの7人は、月曜日から日曜日までの1週間毎日3人が出勤する仕事を引き受けた。各人は1週間のうち3日間出勤し、他の全員と1回ずつ一緒になるように仕事をした。

仕事の様子を聞いてみると、つぎのことがわかった。

- ・ Aは1回目にB, Cと、2回目にF, Gと一緒に仕事をした。
- ・ Bは月, 火, 水曜日に仕事をした。
- ・ Cは連続する3日間仕事をした。
- ・ Dが2回目に仕事をした日だけ雨で、他の6日間は晴れていた。
- ・ Eが2回目の仕事をした日はEの誕生日で、一緒に仕事をした3人でケーキを食べた。

(1) 以下のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1. AとDとEの3人で仕事をした日はない。
2. BとCとFの3人で仕事をした日はない。
3. CとFとGの3人で仕事をした日はない。
4. DとFとGの3人で仕事をした日はない。
5. 雨の日に仕事をした人は3人いる。

(2) 以下のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1. Aが出勤しなかった日はBまたはCのどちらか1人だけが出勤した。
2. Aが出勤しなかった日はDまたはEのどちらか1人だけが出勤した。
3. Bが出勤しなかった日はAまたはCのどちらか1人だけが出勤した。
4. Bが出勤しなかった日はCまたはEのどちらか1人だけが出勤した。
5. Fが出勤しなかった日はAまたはGのどちらか1人だけが出勤した。

(3) 以下のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 月, 火, 水曜日に1度も出勤しなかった人はいない。
2. 火, 水, 木曜日に1度も出勤しなかった人はいない。
3. 水, 木, 金曜日に1度も出勤しなかった人はいない。
4. 木, 金, 土曜日に1度も出勤しなかった人はBだけである。
5. 金, 土, 日曜日に1度も出勤しなかった人はBだけである。

(無断転載を禁止します)

- (4) 以下のうち、正しい可能性があるものを1つ選びなさい。
1. B, D, Fの3人で仕事をした日も, B, E, Gの3人で仕事をした日もある。
 2. B, D, Fの3人で仕事をした日も, C, E, Gの3人で仕事をした日もある。
 3. B, E, Fの3人で仕事をした日も, B, E, Gの3人で仕事をした日もある。
 4. B, E, Fの3人で仕事をした日も, C, D, Gの3人で仕事をした日もある。
 5. B, E, Fの3人で仕事をした日も, C, E, Fの3人で仕事をした日もある。
- (5) 以下のうち、正しい可能性がないものを1つ選びなさい。
1. Cは雨の日に仕事をして, ケーキも食べた。
 2. Dが雨の日に仕事をしたのは金曜日で, EとFも雨の日に仕事をした。
 3. Eの誕生日は木曜日で, CとFと一緒にケーキを食べた。
 4. Eの誕生日と一緒にケーキを食べたのはCとGで, 金曜日が雨だった。
 5. Fは雨の日に仕事をして, そのつぎの日がEの誕生日だった。
- (6) 以下のうち, Fが1日おきに仕事をしたと仮定したときに, 誤っているものを1つ選びなさい。
1. Dは月, 木, 日曜日に仕事をした可能性がある。
 2. Dは火, 木, 日曜日に仕事をした可能性がある。
 3. 月曜日にDとGと一緒に仕事をした可能性がある。
 4. 月曜日にEとGと一緒に仕事をした可能性がある。
 5. 金曜日にEとGと一緒に仕事をした可能性がある。

問題 3

6人の容疑者A～Fの中から、犯人を特定したい。

以下はA～Fの証言である。ただし、犯人はウソをついており、犯人以外はウソをついていない。

Aの証言 私は犯人ではありません。

Bの証言 私とCは犯人ではありません。

Cの証言 私は犯人ではありません。

Dの証言 私とAとBは犯人ではありません。

Eの証言 私は犯人ではありません。

Fの証言 BとEは犯人ではありません。

(1) 以下のうち、Dの証言がウソであった場合、誤っているものを1つ選びなさい。

1. Aが犯人とは限らない。
2. Bが犯人とは限らない。
3. AとBとDの3人が必ず犯人である。
4. Dは犯人である。
5. 犯人が何人であるかわからない。

(2) Eが犯人で、もう1人だけ犯人がいることがわかった場合、犯人は誰か。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. F

(3) 犯人が1人であった場合、犯人は誰か。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. EまたはF

(無断転載を禁止します)

- (4) 以下のうち、犯人が2人であった場合、正しいものを1つ選びなさい。
1. Aは必ず犯人である。
 2. Bが犯人の可能性はある。
 3. Cが犯人の可能性はない。
 4. DとEが犯人である。
 5. EかFのどちらか一方が犯人である。
- (5) 以下のうち、BとCが犯人であった場合、正しいものを1つ選びなさい。
1. 犯人は4人以上である。
 2. Aが犯人の可能性はない。
 3. DかFのどちらか一方が犯人の可能性はある。
 4. Eは必ず犯人である。
 5. Fが犯人の可能性はない。
- (6) 以下のうち、Aが犯人であった場合、正しいものを1つ選びなさい。
1. 犯人は必ず4人である。
 2. Bは必ず犯人である。
 3. Cが犯人の可能性はない。
 4. Dは必ず犯人である。
 5. Eが犯人の可能性はない。
- (7) 以下のうち、犯人が4人であった場合、正しいものを1つ選びなさい。
1. Aは必ず犯人である。
 2. Bは必ず犯人である。
 3. Cは必ず犯人である。
 4. Eは必ず犯人である。
 5. Fは必ず犯人である。

問題 4

A, B, C, D, E, F, G, H, I の 9 名で構成される委員会において, ある重要な議決のために投票を行った。各委員は棄権をせず, 賛成・反対・白票のいずれかを投票した。白票が 3 票以上ある場合, この議決は無効となる。

開票作業に先立ち, それぞれの委員がどのように投票したかを調査したところ, つぎのようなことがわかった。

- ・ A, B, C の 3 名の中に賛成, 反対, 白票の投票をした委員がそれぞれ 1 名ずついた。
- ・ C, D, E の 3 名の中に賛成, 反対, 白票の投票をした委員がそれぞれ 1 名ずついた。
- ・ A と F は異なる投票をした。
- ・ D と G は異なる投票をした。
- ・ E と F は同じ投票をした。
- ・ G, H, I の 3 名のうち, 2 名以上は賛成に投票した。

(1) 以下のうち, 誤っている可能性があるものを 1 つ選びなさい。

1. A と B は異なる投票をした。
2. A と E は異なる投票をした。
3. C と F は異なる投票をした。
4. D と E は異なる投票をした。
5. D と H は異なる投票をした。

(2) 以下のうち, 必ず成り立つものを 1 つ選びなさい。

1. A と C は同じ投票をした。
2. B と D は同じ投票をした。
3. B と E は同じ投票をした。
4. D と H は同じ投票をした。
5. E と G は同じ投票をした。

(3) 白票は最大何票入りうるか。

1. 1 票
2. 2 票
3. 3 票
4. 4 票
5. 5 票

(無断転載を禁止します)

- (4) 以下のうち、必ず成り立つものを1つ選びなさい。
1. Aが白票だと、議決は無効となる。
 2. Bが白票だと、議決は無効となる。
 3. Cが白票だと、議決は無効となる。
 4. Dが白票だと、議決は無効となる。
 5. 議決が無効になることはない。
- (5) 白票が1票である場合、賛成は最低で何票になるか。
1. 3票
 2. 4票
 3. 5票
 4. 6票
 5. 7票
- (6) 議決が無効とはならず、かつ、賛成が反対を下回ったとする。以下のうち、正しいものを1つ選びなさい。
1. Aは賛成に投票した。
 2. Bは賛成に投票した。
 3. Cは賛成に投票した。
 4. Dは賛成に投票した。
 5. Eは賛成に投票した。

